

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【城南中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	「習熟」の度合を高めるため定期テストを学習活動の節目として活かす → 復習を意識させ試験への意欲を高める「チャンスタイム」の設定=学習効果、やりっぱなしを許さず反省と反復を促す「やり直しテスト」=復習効果 個別に取り組む学習法を実践し、自己評価による学習の自動化を図る → 学習内容と同時に学習方法も意識させる指導(1個別最適な学び)実現のための授業スタイル移行 → 相互評価による学び合い、教え合いを取り入れた指導(「協働的な学び」)実現、話し合い活動の授業への反映)
思考・判断・表現	「習熟」と併行して行う「活用」のあり方を検討、相乗的な効果を上げ → 定期テストの中の「思考問題」もやり直しテストの対象とし、「まねね」ことから学ばせる 「思考問題」や授業中の「表現課題」を集約し、研修時にそのあり方と適切さを検討する → 学級活動・道徳・総合的な学習の時間を含む授業のあらゆる場面で「思考」を大切にすること ～待つこと、「習熟」内容をヒントカードとして提示すること、評価語彙を研究し積極的に提示・利用すること など

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<b>&lt;学習上の課題&gt;</b> これまでの「習得」量の少なさ、読解力の不足、小学校から中学校1年生までの算数・数学の基礎・基本の徹底 <b>&lt;指導上の課題&gt;</b> 「教え方」から「学び方」への移行、授業や放課後・家庭での「学習方法」の指導、学習への意欲付け	①「読書」時間の確保(年度当初から) ②「チャンスタイム」と「やり直しテスト」によりテスト前後の学習を補完(1学期末テストから) ③「単元内個別進度学習」の指導計画への位置づけ(2学期以降) ④家庭学習の奨励と内容の強化・充実(夏季休業から) ⑤端末のドリル教材の活用(1学期末から)
思考・判断・表現	<b>&lt;学習上の課題&gt;</b> 「習得」量の少なさが「活用」の難しさに直結、読解力が課題の把握に影響、発想を形に整えることに苦戦 <b>&lt;指導上の課題&gt;</b> 「教え方」から「学び方」への移行、授業や放課後・家庭での「学習方法」の指導、学習への意欲付け	①学級活動における「話し合い活動」を生徒指導だけでなく「協働的な学び」に絡めて各教科で実践(1学期から) ②「単元内個別進度学習」に「活用」を織り込んだ経験値アップ(2学期以降) ③思考・説明等の外化のために語彙力アップと文章の要約の機会増(2学期以降) ④評価語彙を駆使した相互評価による学び合いから励まし合い磨き合いの経験が成功体験として位置づけ(2学期以降)

全国学力・学習状況調査結果分析(7~8月)  
 <小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	C	学習方法の習得を考慮した「個別最適な学び」として、単元内自由進度学習への取り組みを進め、授業の改善にあたった 生徒の学習に対する有用感、意欲の喚起をどう工夫するか、悩みが多い 家庭学習の必要性や有用感の理解を強力に求めたい 具体的に学習方法にまで言及し、かなりの強制力を持つことが必要なのが痛感された
思考・判断・表現	C	学級活動等での話し合い活動がそこで完結してしまい、各教科の学習に影響を及ぼさないことに歯がゆさがある 「表現」だけでなく「思考」場面で、どのような材料を与え活動を促すかの研究を進めたい また、小集団での活動をより多くすることを上記学級活動にも取り入れ、教科での学び合いにつなげることに活路を見出したい 国語力アップは急務であり、図書館の利用率向上やNIEの活用・活動を強化していく

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の平均点は大幅にアップしたが、「話すこと・聞くこと」は依然として弱点である。「言葉の特徴や使い方」を考慮して、特に「言葉」→「語彙数」「語感」「文の中での使い方」等を徹底し、文から文章へと発展させる「書く」取り組みを進めて「話すこと・聞くこと」のフォローに充てたい 数学の平均点もアップが見られるが、「関数」「データの活用」が弱点であることから、文字式や方程式等の基礎を徹底することを主に考えたい
思考・判断・表現	国語では「書くこと」に強みがあるものの、「話すこと・聞くこと」には課題があるのは日常の会話や伝達内容が上手く伝わらない点と符合するので日本語のリスキングが必要なのだろうか 数学の「関数」「データの活用」は習得した知識・技能の活かし方が課題なので、応用課題へのドリル的取り組みが求められるのではと考える

①結果分析(管理職・学年主任等)  
 ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	中2国語に一定の成果が見られた。それ以外の学年・教科について特別に留意する必要がある また、生徒数は少ないながらも市の分布に従うところが多いが、成績下位の者の割合が高い学年・教科が見受けられ、今後の学力向上にあたってターゲット化は可能かと思われる
思考・判断・表現	基礎的基本的な知識や技能の習得が不十分であれば、その活用である思考・技能・表現に大きな影響があるのは当然である。 昨年度途中から、これを小学校での学習のあり方にまで拡大して解釈しようとする試み、夏の研修会やその後の交流の中でも特に「国語力」「読解力部会」「基礎学力部会(算数・数学)」に焦点を当ててきた。この成績傾向が続いている現状に照らし、小・中連携から小・中一貫という大きなテーマに取り組む必要があるのかもしれない

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	①昨年度までの時程表を改訂して「読書」時間を確保できたので、今後は新聞を活用した要約の課題やお気に入りの本のポップづくり等も組み込む予定である ②「チャンスタイム」と「やり直しテスト」を定期テストに位置付けたので今後は効果の検証に入る ③研究推進委員会を中心に「単元内個別進度学習」の指導計画への位置づけを始めた ④家庭学習の奨励は今後の課題とする ⑤端末のドリル教材の積極的活用を開始した	これまでの取り組みを継続する → 指導訪問10月 「花笑み教育」に関わる連携 1 読解力 2 基礎学力(算数・数学)
思考・判断・表現	B	①特別活動部会と学校課題研究部会を中心に、学級活動における「話し合い活動」を計画的・組織的に実践し始め、「協働的な学び」に絡める準備を整えている ②「単元内個別進度学習」の取り組みを開始したが、「活用」にあたる取り組みを具体的に織り込んだ計画は今後の課題 ③思考・説明等の外化のために語彙力アップと文章の要約の機会増は「知識・技能」の欄に記載 ④評価語彙の検討は3学期以後になる	これまでの取り組みを継続する → 特別活動部会研修研究授業会場 2月 「花笑み教育」に関わる研究授業(学活)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)